

富士見市の社会教育 現状把握シート

強み		
委員	分野	内容
本田	インフラ・基盤	防災、防犯、生活支援等の地域を守る基盤が整っている
	地域活性化	地域まちづくり協議会支援・連携、地域活動の支援・協働
	地域活性化	市としての各種地域振興策、イベント、地域イベント支援等
	人材派遣	専門性を持った市職員を講師として派遣、市民人材バンク
	テーマイベント	国際交流、平和、地域自治、文化、芸能等の各種イベント開催
	生涯学習促進	生涯学習ガイド、推進委員会、市民懇談会
	情報発信・広報	広報紙発行、情報コーナー充実（サークル・団体情報）
活動の担い手育成	防災、防犯、介護、健康、食生活、人権、学芸、読み聞かせ等	
一般向け講座・体験等	生活・文化、社会課題・地域課題、健康・食、人権、歴史、読書	
一般向け講座・体験等	富士見市民大学	
一般向け講座・体験等	歴史・文化体験・製作（水子貝塚、難波田城）	
一般向け講座・体験等	体操、ウォーキング	
充実した子育て支援	子育てサロンによる仲間づくり、情報交換、不安・悩みの解消	
充実した子育て支援	プレイルーム、子育て講座、コンサート、人形劇、子育て相談	
子ども・親子向け	体験学習、青空学校、親子交流イベント、親子参加講座	
子ども・親子向け	児童館運営事業、地域子ども教室支援、子ども事業企画支援	
子ども・親子向け	家庭学習応援事業、子ども大学、子どもフェスティバル	
子ども・親子向け	読書コンクール、おはなし会、子ども司書講座	
子ども・親子向け	平和学習（戦争体験を語る）、ジュニア考古学クラブ	

弱み		
委員	分野	内容
本田	インフラ・基盤	防災組織・活動の担い手不足、維持困難、活動マンネリ
	担い手不足	コミュニティ・会員・サポーターの固定化・現象、高齢化
	参加者減少	高齢化・新規無し等による、運営内容やPRを要検討
	周知・告知不足	新規参加者が来ない
	連携活動・情報共有	市と地域、地域同士、部門間の連携や協働をさらに進める必要あり
	利用者変化への対応	育休や時短勤務の（母）親増加への対応、PC→スマホ等
	渡邊	計画および活動実績に対する評価
計画遂行の推進力		社会教育・生涯学習の主体は市民であるとはいえ、市が計画の制定者として過度に影響力を発揮することのない程度にリーダーシップを発揮して、計画遂行の推進力となるべきではないかと思えます。
市民に対する発信力		市民にとって社会教育・生涯学習に関わる・実践することの意義や利点に気がつけない場合、参加・関与が十分なレベルに到達しないおそれが生じます。「知られる」「理解してもらえる」状態をもたらされるよう市民への情報発信や啓発を充実させる必要はある、と考えます。 しかしながら、市のリソースは限られていることを念頭に置き、種々の手段を幅広く利用する方向ばかりを検討するのではなく、反対に、たとえば、市の広報誌ですべてが果たされるくらいに割り切って考える・利用することも検討すべきではないかと思えます。（市のリソースは有限であることに留意する）
デジタル技術の活用		既存の施策・活動は、物理的な移動を伴うことを前提としたものが多いために、参加・関与を叶わないものとし、多様性を損ねているおそれが生じていることも考えられます。
関野	家庭・地域の教育力の向上	コロナ禍のもとでの評価なので、十分な取組ができなかったという指摘が多いのはやむを得ないと思えます。
	生涯に渡る学習機会と地域づくりの推進	課題として指摘されていた点を私の視点でまとめると、①会員や担い手の高齢化や減少、②PR等周知方法の検討、③若い人や現役世代が参加しやすくする、④ニーズの変化への対応、⑤ICTの活用等実施方法の検討、といったところでしょうか。
	暮らしとまちづくりに役立つ読書活動の推進	最近、水子貝塚の市民学芸員の管外研修で千葉市にある国の特別史跡（国宝相当）である加曽利貝塚を訪れました。その際一番印象的だったことは、そこでのボランティアガイドの活動のレベルが高いことでした。自分の活動への反省を含めて、質を高めることの重要性を強く感じました。
	開かれた教育委員会	
秋元	活動しやすさ	公民館のない地域もある。公民館同氏は交流しているが、交流センターは、その中に入っていない
	地域愛	地域によっては地域に無関心な所もある
	子ども中心	子どもたちと出会う場を作らないと日常的には、子どもに出会えない大人もいる
戸田	防災対策事業（危機管理課）	避難所としての横のつながりが不十分である（関係団体）。避難所を中心とした防災訓練が年に1回は必要と思われる

保護者・親向け学習	不登校・引きこもり等講座、子どもの食育講座
知的障がい者等支援	青年学級
高齢者支援・交流	地域の高齢者の居場所・交流の場、サークル活動
高齢者支援・交流	認知症・介護予防、文化・教養、健康体操、娯楽
高齢者支援・交流	コミュニティ大学活動
地域資源活用	難波田城公園、水子貝塚公園、柳瀬川、施設の展示室貸出
地域資源活用	コスモス街道、青空市場、地域の伝統行事・田んぼ体験
地域資源活用	ららぽーと富士見での展示、お月見一座
公民館活動の基盤	文化祭（活動発表イベント）・展示、地域だより発行、運営審議会
公民館活動の基盤	利用者交流会支援、利用者懇談会、施設維持管理事業
公民館活性化	子ども向け、40～50歳代向け、親子向け、音楽、カフェ等
連携開催・展開	専門家、専門組織、県・他部署等との連携により内容・集客充実
多面的に一体化した活動	指導者養成、市民向け講座、団体との意見交換会等をセットに
市民参加型の運営	指導員、編集委員、ボランティアガイド等として参画
人材の循環	子ども向け体験活動のかつての参加者が指導員となる事例散見
デジタル情報発信	市HP、専用YouTubeチャンネル、SNS等利用（参加しやすさ）
デジタル情報発信	過去講座動画配信、イベント情報発信等（来館のきっかけに）

シティプロモーション課	・サイクリング道路の「コスモス街道」について、維持管理している会員の高齢化に伴った対策が不可欠である。またサイクリング道路沿いにトイレ等の設置がない ・環境を意識し、自然に親しめる大型公園が不足（びん沼公園以外の形で）	
公民館・各交流センター	・高齢者サロンをはじめ、主催者も参加者も高齢化し継続的に運営していくのが難しい ・講座の内容によって関心が得られず参加者減がみられる	
市民健康増進事業（増進センター）	市民全員が誰でもできる体操の普及が不可欠である 例）パブリカ体操（幼稚園、保育園、小中学校、高齢者サロンを通じて市民全員ができるもの）	
水子貝塚資料館	水子貝塚をもっとアピールするための工夫が必要。さらに縄文時代にふれた行事のとり組み、祭りが必要	
難波田城資料館	富士見市ならではの特別展示（テーマを決めて）の工夫	
図書館	施設内で子どもや幼児が遊び（ゆったりくつろげる場）の工夫があるとよい。小さなテントの中で自由に読める場とか	
交流センター（文化全館）	もう一か所交流センターがあると市民が集いやすいのでは？（集会所では狭すぎることもある）	
深瀬	情報発信の偏り	初めて知った事業や会議が多く、十分に情報発信されていないものが散見
	全体のデザイン	全体的にどういう設計意図をもって、人と人のつながりの強化を促進しようとしているのか不明瞭
	組織間連携の不足（コラボの不足）	・似たような事業を違う部署が行っているように見える（組織横断でのプロセス定義が不明瞭。庁内でのコラボの余地あり） ・関連組織内で活動が固定化（例えば、PTAが学校関連以外の異なる分野の団体とコラボするなどの展開が不足）
	世代の偏り	高齢者/子どもの活動が目立つ。働く世代や単身を対象にした活動が少ない
	地区の偏り	活動が特定の地区に偏っている
	新陳代謝の不足	継続年数が長いのに成果が不明瞭（マンネリ化、参加者が固定化し、出入りが少ない、新しい取組みが少ないという印象）
	担い手の育成不足	担い手が十分なファシリテーションのスキルを持っていないように見える
	コミュニティ・スクールの成熟度	地域が学校の運営に関わる取り組みが不足している
内海	仲間づくり 人材育成 （交流機会）	・個人や団体の活動の様子をより具体的に伝えるために、「市民人材バンク」HPに紹介のためのショート動画を添付するなど、広報を工夫できないか ・地域防災訓練や総合防災訓練等で、実行委員に子どもを加えたり、進行を子どもに任せる場面を作ったりするなど、子ども・大人の交流機会を工夫できないか
	多様な学び 学んだ成果	・他県市町と連携し、対面またはオンラインで学習成果をもとに交流できないか ・アンケート結果から児童生徒の富士見市への関心・理解が低い結果となっている小学校3・4年生時に社会科副読本「ふじみ」を活用し地域の自然や歴史、農産物や産業等について学ぶとともに、施設見学等も行ってはいるが、発達段階に応じて地域に関わる機会や地域の課題解決に主体的に関わる機会を更に工夫できないか

渡邊	満足感	市内で実施されている多数の施策・活動のすべての参加者の話を伺った訳ではないので、限られた接点があった中でのごとに限られますが、これまでに接点があった方々からお話を伺った限りでは、参加・関与されている方々の満足度はおおむね高いようで、施策・活動の継続性の源泉になっているように感じられます。
	距離感	個々の活動施策・実施団体の規模が程よいサイズで参加者同士が関わりを持ちやすく、一体感をもって活動し、いい意味で影響しあえる関係性を育みやすい状態にあるように感じられます。（参加者・関与者がお互いに顔が見える存在である）
関野	家庭・地域の教育力の向上	
	生涯に渡る学習機会と地域づくりの推進	令和3年度富士見市生涯学習アクションプランの事業メニューをみると、第3次富士見市教育振興基本計画で基本目標として掲げられている5つの分野について、多様な事業が実施されている印象を受けました。ただし、評価の部分で、成果がみられないとか継続の是非を検討と述べられているものは、見直しが必要でしょう。
	暮らしとまちづくりに役立つ読書活動の推進	新たなメニューの必要性やニーズの変化への対応が指摘されている部分と合わせて、スクラップアンドビルドが求められると思います。なお、アクションプランには防災・防犯関連の事業も含まれており、社会教育の守備範囲の広さを感じました。
	郷土遺産の継承	
	開かれた教育委員会	
秋元	活動しやすさ	各地に公民館があり、サークル活動や地域行事を支援している
	地域愛	町会などいろいろな組織があり、自分たちの地域を意識し、よくしていこうという気持ちがある
	子ども中心	子どもたちを見守る大人がたくさんいる
戸田	防災対策事業（危機管理課）	防災リーダー養成講座、防災ガイドブックの製作等、市民の防災意識の向上のための啓発活動は有効
	公民館・各交流センターだより	・地域のあらゆる情報を提供したり、地域の課題が提示されたり工夫があり、努力がうかがえる ・各講座も集いの場として定着し、仲間づくり、情報交換の場として有効活用されている
	子育てに関する講座（子ども未来応援センター）	「親と子」「親と親」等のスキニッポの場、情報交換の場として有効に機能している

小栗	全体	・ひとつだけ複数（2こ）の課と一緒に事業をしているが、他はすべて単一の担当課で完結している。（縦割り） ・知らない事業もあり、広報不足を感じました。
	危機管理課	啓発事業でもある「防災」に関して、コロナ禍でも従来の“集まる”形での開催のみ実施。結局「中止」になったものもある。 では、コロナ禍で災害があった場合の備えはどうなっているのか？心配です。
蘇武	気になったこと	・都市計画マスタープランでは、①～⑦に分けられているんですが、『学び』の地域格差が生じていないか？ ----- ①鶴瀬東地域 ②鶴瀬西地域 ③勝瀬地域 ④南畑地域 ⑤水谷地域 ⑥水谷東地域 ⑦西みずほ台地域 ・「第2次富士見市教育振興基本計画」と関連する事業が多く、「富士見市地域防災計画」「いきいき健康&歯っぴーライフ☆ふじみ」「第3次富士見市子ども読書活動推進計画」等にも絡めて、いろいろな事業を展開して欲しいと思いました
	協働活動 例 安全・防災教育	継続的なリーダーシップとチームワーク
	異年齢・異世代 例 親世代への支援	情報共有 予算の確保 交通費・人件費・消耗品 →コミュニケーションを支える
	郷土愛・誇り 例 富士見市の今・昔	施設の改修 Wi-Fiの整備 AR・MRの活用 →地域の特性・発信、ICT
	つなぐ・実感 例 語り合える場	公共施設にカフェ等の設置 →予算・施設の見直し 「コミュニケーションが取れる工夫」 例 座席レイアウト 備品等

	市民健康増進事業（送信センター）	様々な講座が開設され、住民一人ひとりが健康について理解し維持していくために有効に機能している
	水子貝塚資料館	国の史跡に指定されている水子貝塚に隣接された資料館として、地域の歴史や文化を学ぶための講座の開設により、子供連れに考古学等を学ぶ機会を与えている
	難波田城資料館	富士見市の歴史を知るための常設展示は有効である。季節にあわせた行事等もよい（公園内）
	図書館	各事業を通して、図書館や本に触れあう機会がありよい
深瀬	全般的な傾向	（他の地域と比較して）社会教育に対する熱意が市民・行政ともに高いという印象
	組織的な取組	多くの組織/団体が社会教育的な事業や活動に取り組んでいる
	取り組みの数	取り組みの数がとても多い
	市民公募制度	委員会の市民公募が他市に比較して多い（とはいえ、もっと情報発信・啓発して、市民公募を活性化し、充て職を減らしていく余地がある）
	ロールモデルの充実	お手本になるような活動がある（ただし、まち全体に波及させ、良い影響を与えるべく、工夫が必要）
内海	仲間づくり 人材育成 （交流機会）	<ul style="list-style-type: none"> ・「人材バンク推進員の会」が子育て世代を対象としたモデル事業として実施している ・「子ども大学☆ふじみ」に参加する子どもの保護者同士のつながりをつくろうとしている ・富士見市子どもフェスティバルや地域でのボランティア等、子どもたちが地域の大人と共に活動する機会がある ・各公民館で利用団体間の交流機会がある
	多様な学び 学んだ成果	<ul style="list-style-type: none"> ・「富士見市民大学」で様々な講座や講演会を行っている ・富士見市民文化祭や各公民館等で学習成果を発表する機会がある ・親の学習講座や講演会等、様々な学習機会がある ・「やなせ川いかだラリー」や「縄文の森コンサート」、「難波田城公園まつり」等、地域の環境を生かした活動がある
小栗	全体	庁内の担当部署が多岐に渡って、関わってくれている
	公民館・各交流センター	地域の拠点でいろいろな事業を展開している
蘇武	協働活動 例 安全・防災教育	地域が一体となって取り組む防災訓練
	異年齢・異世代 例 親世代への支援	子育て支援 家事支援
	郷土愛・誇り 例 富士見市の今・昔	郷土伝承 伝統文化 商業施設
	つなぐ・実感 例 語り合える場	公民館等の活用 サロン等の開催